

株式会社アドバンテスト

**2013年度 第1四半期
決算説明会**

2013年 7月25日

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

**2013年度 第1四半期
決算報告**

2013年 7月25日
取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

ADVANTEST®

(単位: 億円)

	2012年度				2013年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	実績	1Q	
						前期比 (%)	前年同期比 (%)
受注高	462	253	244	298	395	32.1	-14.5
売上高	334	392	246	357	301	-15.8	-9.8
売上原価	158	187	116	179	148	-17.5	-6.3
売上総利益	176	205	130	178	153	-14.0	-12.9
営業利益	8	26	-26	-7	-33	-	-
営業外収支	5	-8	-4	-7	5	-	-5.7
税引前純利益	13	18	-30	-14	-28	-	-
当期純利益	4	11	-34	-19	-36	-	-
受注残	364	225	223	164	258	57.0	-29.1

4

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/7/25

○ 2013年度第1四半期の業績概要

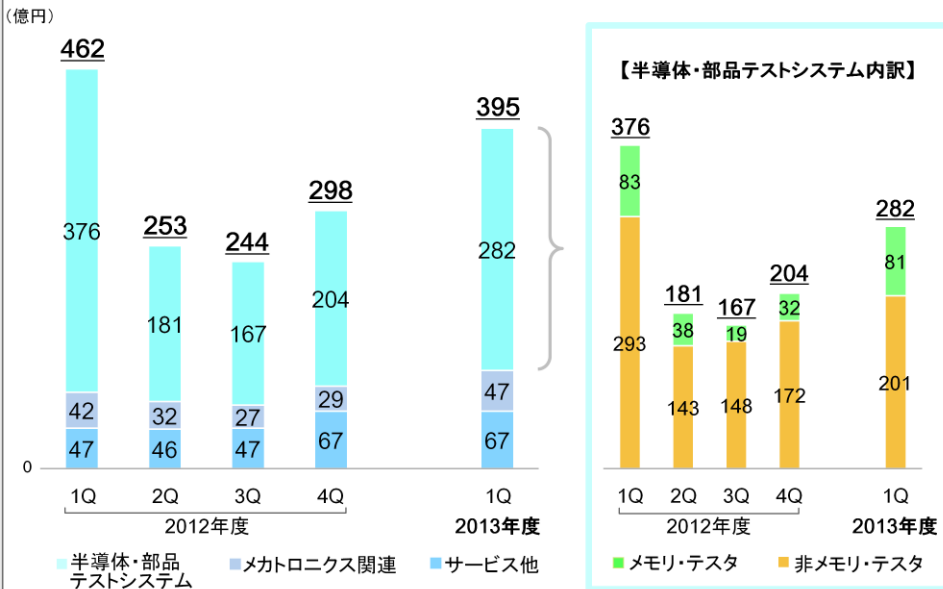
- 受注高 395億円 前期比 32.1%増
- 売上高 301億円 前期比 15.8%減
- 営業損失 33億円
- 税引前純損失 28億円
- 当期純損失 36億円

○ 損益に対する為替の影響は、外貨建ての売上高が低かったことで、営業利益に対するプラス効果が限定的なものにとどまった

○ 受注残 3月末から 94億円増加 258億円

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/7/25

○ 2013年度第1四半期の事業セグメント別受注高

- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比38%増 282億円
 - うち非メモリ・テスト 201億円
 - メモリ・テスト 81億円

(主な増加要因)

- ・全体としてモバイル機器向けが改善
モバイルDRAMの生産量拡大、性能向上への対応として
メモリ・テスト需要が回復
非メモリ・テスト「V93000」もモバイル機器用のロジックIC向けで堅調

- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比増 47億円

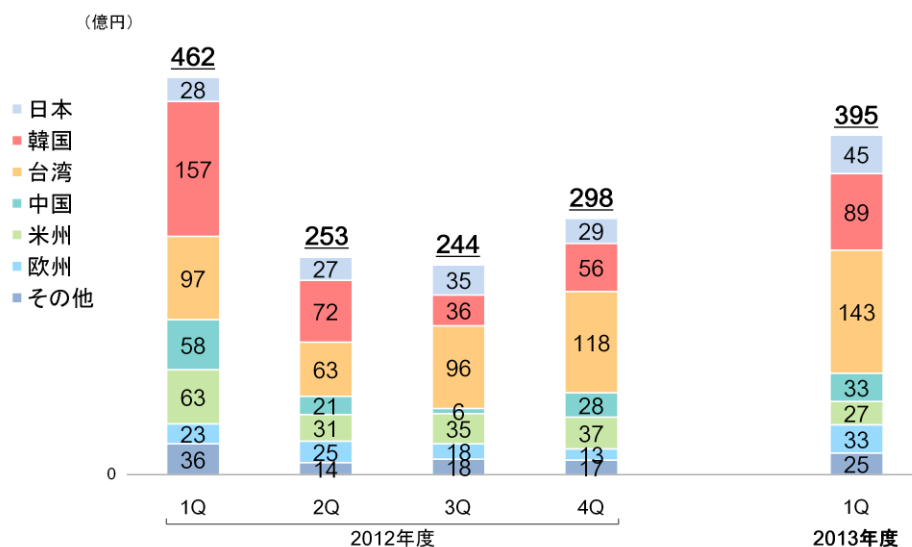
(主な増加要因)

- ・メモリ・テスト需要の増加と連動してデバイス・インタフェースが増加、
ナノテクノロジー製品も貢献

- サービスその他事業
 - ・前期比横ばい 67億円

受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST



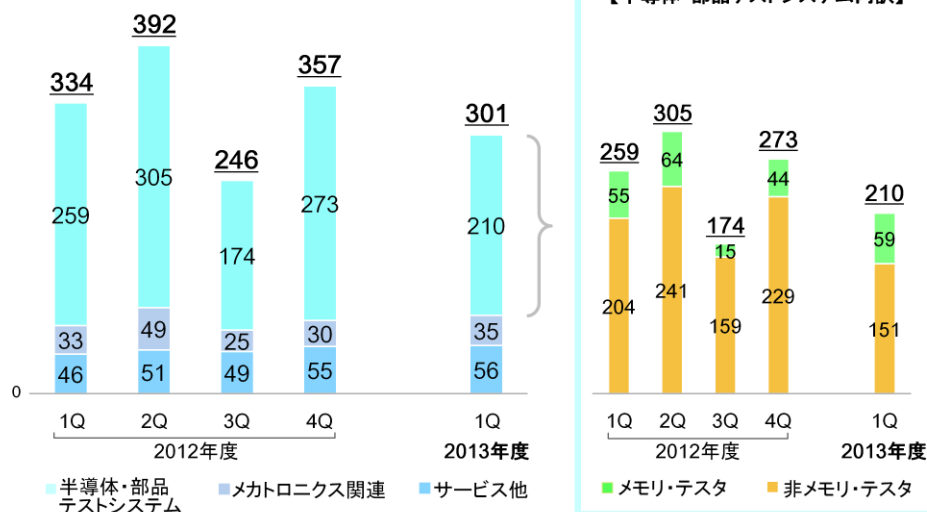
○ 2013年度第1四半期の地域別受注高

- 韓国
モバイルDRAM向けでDRAMテストが増加
- 台湾、欧州
主にモバイル機器用のロジックIC向けが増加

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST

(億円)



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/4/25

○ 2013年度第1四半期の事業セグメント別売上高

- 半導体・部品テストシステム事業
 - ・前期比 23%減 210億円
 - うち非メモリ・テスタ151億円
 - メモリ・テスタ 59億円

(主な減少要因)

- ・モバイル機器向けのテスタ投資の端境期にあたったことで、前期末の受注残の水準が低かった影響を受けた
- LCDドライバIC用テスタが大きく減少、ロジックIC向けも全体的に軟調

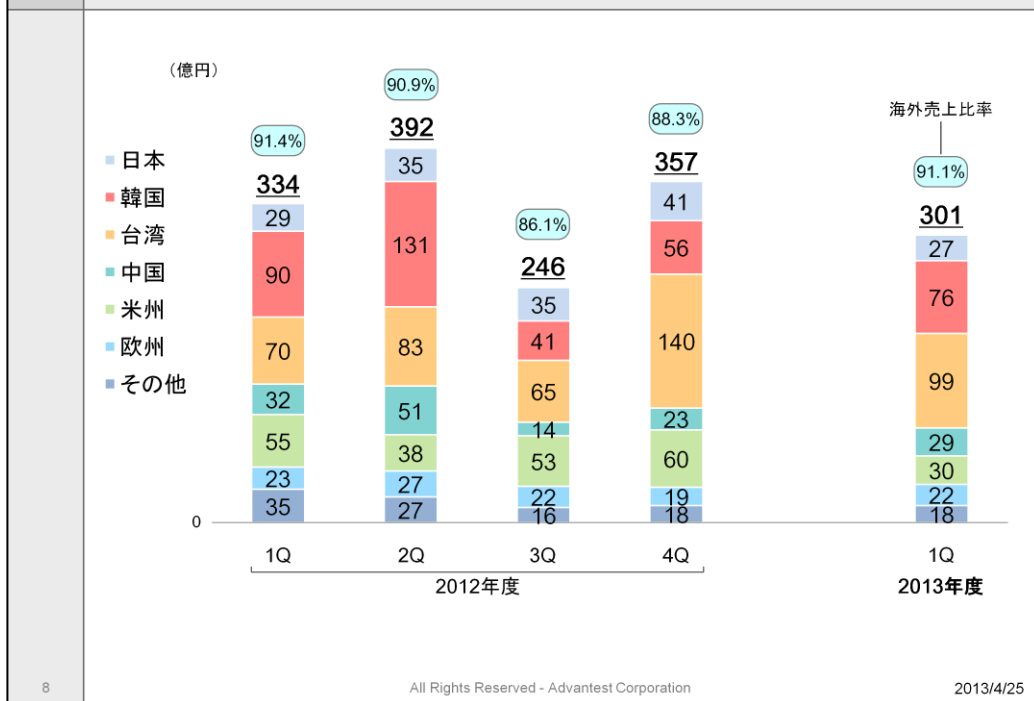
- メカトロニクス関連事業
 - ・前期比増 35億円

(主な増加要因)

- ・デバイス・インタフェース販売がメモリ・テスタ需要増と連動

- サービスその他事業
 - ・前期比横ばい 56億円

売上高 地域(出荷先)別

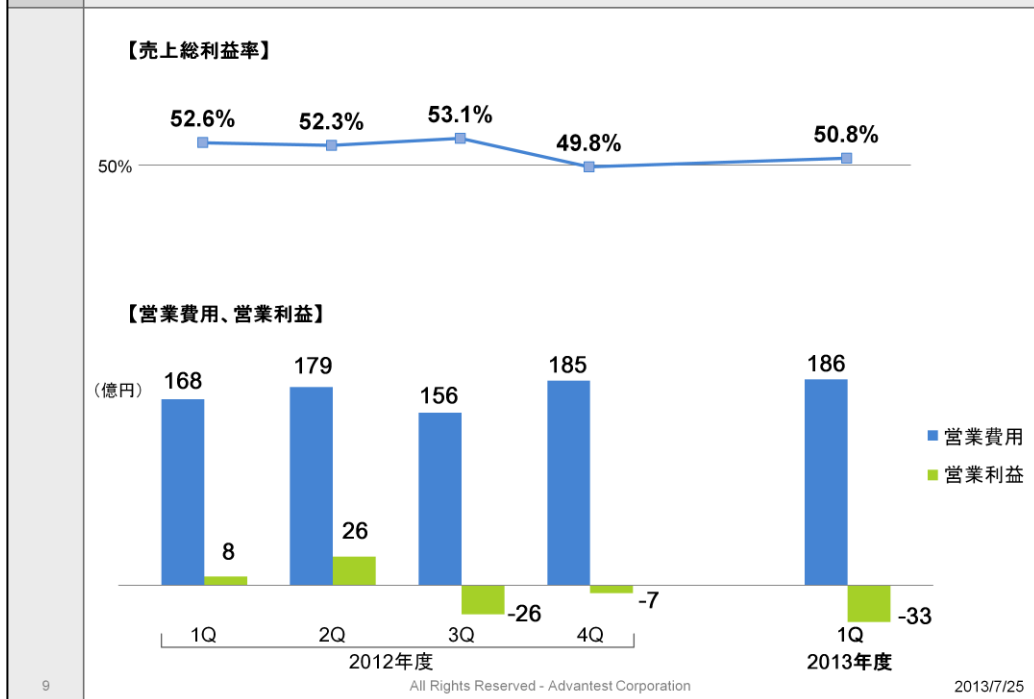


○ 2013年度第1四半期の地域別売上高

- 韓国
モバイルDRAM向けでメモリ・テストが増加
- 台湾
LCDドライバIC向け、モバイル機器用ロジックIC向けが減少
- 米州
MPU向けの減少など

売上総利益率/営業費用/営業利益

ADVANTEST®

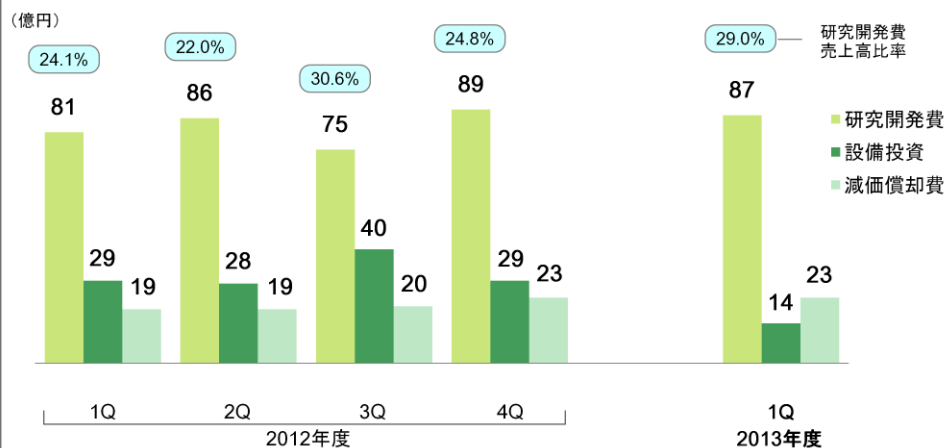


○ 2013年度第1四半期の営業利益について

- 売上総利益率 前期比1ポイント増 50.8%
- 営業費用 前期とほぼ横ばい 186億円
円安進行に伴い、海外オペレーションに関わるコストの円換算額が増加
- 営業損失 33億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST

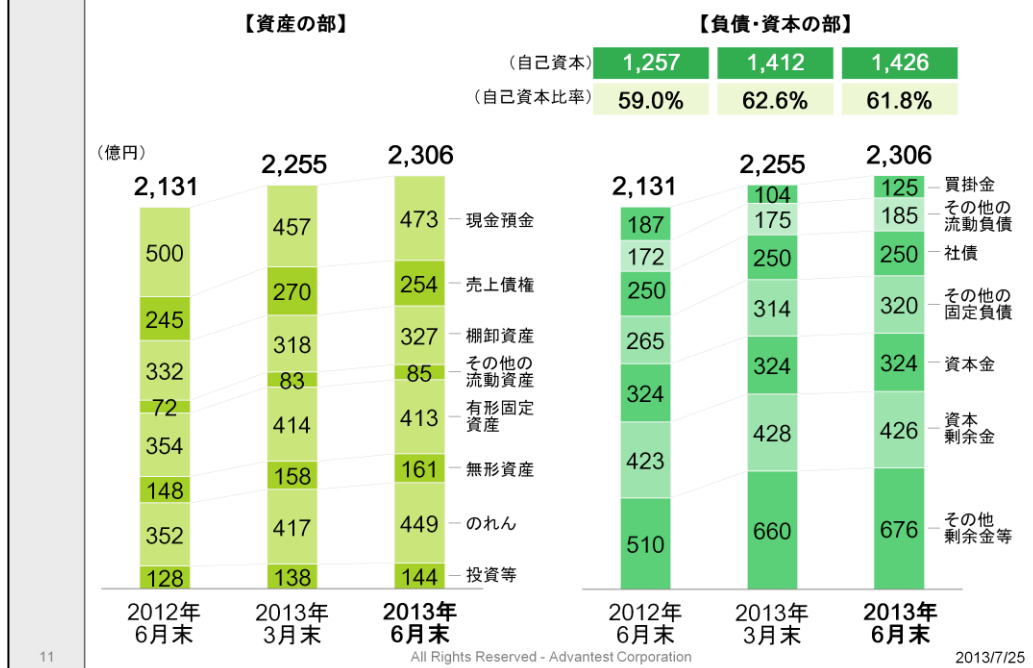


○ 2013年度第1四半期の営業費用の内訳

- 研究開発費 87億円
- 設備投資 14億円
- 減価償却費 23億円

バランス・シート

ADVANTEST



○ 2013年6月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

・現金預金

2013年3月末比 16億円増 473億円

・のれん

円安の進行と、6月に買収完了した米国W2BI社ののれんの影響
2013年3月末比 32億円増 449億円

・これらの結果、総資産は、

2013年3月末比 51億円増 2,306億円

○ 負債・資本の部

・自己資本

2013年3月末比 14億円増 1,426億円

・自己資本比率は

2013年3月末から 0.8ポイント減 61.8%

2013年度第1四半期 事業アップデート

“引き続きメモリ需要に期待”

2013年 7月25日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

■ メモリ・テスト事業

- 足元はモバイルDRAMの高速化対応のための需要が中心だが、前工程投資の開始にも期待
- NANDフラッシュ向けでは、7月に発表した新製品「T5831」によるシェア獲得に努める

■ 非メモリ・テスト事業

- ローエンド・スマートフォンの存在感が増す一方、ハイエンドクラスの成長率は調整気味
- ロジックIC、CISなど広範な品種で下期の需要拡大を見込む

○ メモリ・テスト事業の見通しについて

- モバイルDRAMの生産拡大に連動した、底堅い需要が今後も期待できる
- 足元は、モバイルDRAMの高速化対応からの新規テスト需要が中心。今後、顧客各社で前工程投資が行われれば、生産能力拡張のための新規需要も期待できる
- NANDフラッシュ向け市場では、今月に正式発表した新製品「T5831」で、シェア獲得に努めていきたい

○ 非メモリ・テスト事業の見通しについて

- モバイル機器の台数成長、性能革新、そしてメーカー間の競争が各種半導体の生産量増加や性能向上を促し、その結果当社の非メモリ・テスト製品需要が喚起される構図は当面続く
- 足元では、ローエンド・スマートフォンなど、新興国向けモバイル機器の存在感が増す一方、ハイエンドクラスの成長率は調整気味
- しかし、今年度の後半から終盤にかけ、再びモバイル機器の生産拡大への対応が進むと期待
- 並行して、モバイル機器の高性能化に対応するデバイスの性能が進化し、新規のテスト投資がさまざまなデバイスで相次ぐとみている

■ ハンドラ事業、デバイス・インタフェース事業

- メモリ・テスト需要が回復傾向にあるほか、モバイル機器用半導体のファイン・ピッチ化が下期より本格化。事業環境は改善中
- プローブ・カードは各顧客内の評価が継続中下期の立ち上がりを想定

■ サービス&サポート事業

- インストールベース増加に連動して、売上水準の持続的な底上げが進む

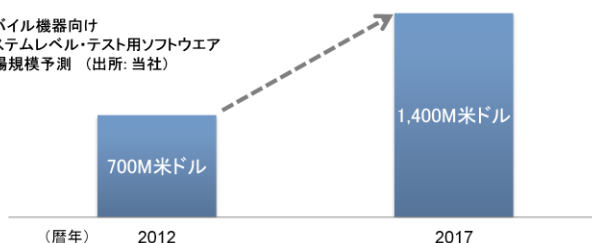
○ 次に、ハンドラ事業と、テスト周辺ビジネスについて

- テスト・ハンドラ、デバイス・インタフェース製品の需要は、後工程用メモリ・テストの需要との連動性が高い
- そのメモリ・テストの需要が回復傾向にあるほか、下期から、モバイル用半導体のファインピッチ化が進むことで、市場環境に改善傾向。下期の受注拡大を見込んでいる
- プローブ・カードについては、下期の事業立ち上がりを想定
- サービス、サポート関連では、非メモリ・テストを中心にインストール・ベースがここ2年良いペースで伸びていることに支えられ、売上水準の底上げが持続的に進むと考えている

■ ワイヤレス・テスト市場へ参入

- モバイル機器の動作確認用ソフトウェア專業
米国W2BI.COM, Inc を、2013年6月末に買収完了
- 業界で高く評価されるW2BI社のソリューションと、
当社のグローバル販売網とのシナジーで
成長市場からの収益を伸ばす

モバイル機器向け
システムレベル・テスト用ソフトウェア
市場規模予測 (出所: 当社)

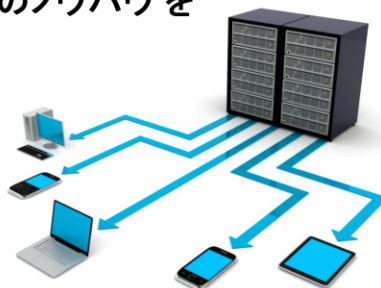


○ 中長期の成長のために強化中の、新規事業拡大の取り組みについて

- バランスシートの実績報告で触れたとおり、当社はかねて進めてきた米国W2BI社の買収作業を、6月に完了
重点施策である「上位市場の創出」の一環としての取り組み
- 買収総額は約1,300万米ドル、
第2四半期以降の今期の売上高は約10億円を想定
- W2BI社は、スマートフォンなどモバイル機器そのものの動作検査用のソフトウェア專業企業で、通信キャリアや端末メーカーが中心顧客
- モバイル機器のテスト市場は、モバイル機器の台数の増加や各国へのLTE普及を背景に成長中
- W2BI社が属する、モバイル機器のシステムレベル・テスト用ソフトウェア市場の場合、今後5年間で約2倍規模へ拡大するとみている
- この成長市場の中で、W2BI社の事業基盤と、当社のグローバル販売網を組み合わせることで、収益を拡大

■ SSDテスト市場へ参入

- エンタープライズ用途を中心に、今後高い成長が期待されるSSDのテスト市場へ参入
- SSDテストの市場規模は、SSD市場の成長に連動し今後3年間で3倍の約90億円へ伸びると想定
- NANDフラッシュメモリーメーカーとのコネクションや、テスト手法効率化などのノウハウをSSDテスト拡販に活用



○ 「上位市場の創出」について、もう1件ご紹介する

- 当社は今年度から、SSDのテスト市場へ参入する
- SSDは、ご存じのとおりストレージ・デバイスの本命としてサーバー用途を中心に、今後高い成長が期待されている
- IBVerigy社の統合直後から、新規事業のテーマとしてSSD関連テスト・ソリューションの開発を進めてきた
- SSDテストの市場規模は現在は小さいが、SSD市場の成長に連動し、今後3年間で3倍の約90億円に伸びるとみている
- SSDメーカーの多くはNANDフラッシュメモリーメーカーでもあり、当社にとり、なじみ深い市場
- 多くの潜在顧客とコネクションが既にあるほか、被測定物は異なるが、投資効率の改善あるいはテスト効率化など、当社が培ってきたテストに関するノウハウを活用できることで、既に高い競争力を有していると考えている
- 販売開始予定時期との兼ね合いから、来期以降の本格的な業績貢献を予定

■ その他新規事業

- 事業展開スピードを加速させるため、社内組織を6月に改組
新規事業の販売面における取り組みを強化
- クラウド・テスト事業を北米でもスタート
台湾、欧州でも今年度中に開始予定
来年度以降の収益本格化に向け、サービス認知度に手応え



ADVANTEST.Group

○ 他の主な新規事業の状況について

- 新規事業の展開に際して、これまで開発リソースを積極投入してきたが、事業化の推進に特化した専任組織を新たに6月末に設置
新規事業の売上拡大スピードを加速させる
- 従来のテスト事業と全く異なるビジネス・モデルとして進めているクラウド・テスト・サービスを、北米でも開始
台湾、欧州でも今年度中にサービスを開始予定
- ユーザー数はまだまだ発展途上だが、反響に手応え
来年度に大きく売上を伸ばせるよう、事業基盤の拡大に取り組む

■ その他新規事業

- 電子ビーム露光装置の新製品「F7000」が初の受注を獲得
- テラヘルツ分光・イメージング解析プラットフォームを新開発
製造工程のインライン・モニタリングなど、
研究用から産業用までテラヘルツ波の利用領域を拡大



電子ビーム露光装置「F7000」



テラヘルツ分光・イメージング解析
プラットフォーム

○ 他の主な新規事業の状況について

- 電子ビーム露光装置の新製品「F7000」が、初受注を獲得
今後は、研究開発機関など、半導体企業以外にも受注を期待
- テラヘルツ波関連製品では、
テラヘルツ分光・イメージング解析プラットフォームを新開発
製造工程内でのモニタリングなど、研究用途から産業用途まで、
テラヘルツ波関連市場の拡大を図っていく

2013年度 業績予想

ADVANTEST

2013年度為替前提: 1米ドル=90円、1ユーロ=120円

(単位: 億円)	2012年度 実績	2013年度 通期予想
受注高	1,257	1,650
売上高	1,329	1,600
営業利益	1	130
当期純利益	-38	98
1株当たり 中間配当金	10円	10円(見通し)
1株当たり 期末配当金	10円	10円(見通し)

※通期業績予想は2013年4月に開示した内容から変更ありません

○ 最後に、2013年度の業績予想について

- ・非メモリ・テストの動向が想定よりやや弱い、メモリ・テストは予想以上の堅調な動きが今後期待でき、上期までは期初の予想に概ね沿った推移

○ 業績予想は、前回4月に発表した

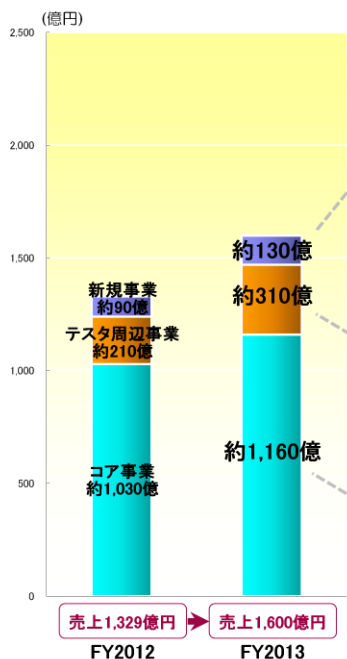
- ・受注高 1,650億円
- ・売上高 1,600億円
- ・営業利益 130億円
- ・当期純利益 98億円
- ・一株当たり配当金予定 年間20円

から変更ない

- ・為替レートは1米ドル=90円、1ユーロ=120円で、前回の前提を継続
- ・為替感応度は、通貨別の売上増減により変動するが、期初に申し上げた通り、対米ドルの円安がメリットになる

2013年度 業績予想(カテゴリ別)

ADVANTEST



新規事業 前年度比 +40億円

- EB露光装置、テラヘルツ製品等の新市場での拡販
- ワイヤレステスト、SSDテスタへの展開

テスタ周辺事業 前年度比 +100億円

- 【デバイス・インタフェース】
- プローブ・カードの顧客獲得、既存DI製品のシェア増
- 【サービス】
- 保守サービス拡充で収益増

コア事業 前年度比 +130億円

- 【半導体テストシステム】
- モバイル向けのシェア堅持および、CIS、パワー系、MCUなどでシェア向上
 - DRAM、NANDの高速メモリ・テスタ需要獲得
- 【テスト・ハンドラ】
- メモリ・テスタとの連動需要を獲得

- 参考まで、今期の業績予想の内訳を事業のカテゴリ別に再編集するとこのような分類となる